

共通科目

(博士後期課程)

| | | | | |
|-----|--------------|--------------------------|----|------|
| 科目名 | 保健政策・医療管理学特論 | code number : HPM 303 | 必修 | 1 単位 |
|-----|--------------|--------------------------|----|------|

| | | | | | | | |
|-------|----------|------|--------|-------|----------|------|----|
| 科目責任者 | 中田 善規 教授 | | | | | | |
| 配当年次 | 1年次 | 配当学期 | 前期(前半) | 曜日・時限 | 火曜 1,2時限 | 授業方法 | 講義 |

1. 授業の概要

保健行政・医療管理学分野は公衆衛生学の中でも多岐にわたり、すべての分野を十分に把握するのは困難である。各分野の専門家でも自分の専門外を十分に理解できないことも多い。そこで本講義ではオムニバス形式で保健行政・医療管理学分野内の各専門家がそれぞれのサブスペシャリティの入門部分を解りやすく解説し、初学者にとっても保健行政・医療管理学分野全般を概観できるようになる手助けをすることを目的とする。

2. 授業の到達目標

【一般目標(GIO)】

1.保健行政・医療管理分野を概観する。

【行動目標(SBO)】

- 1.保健行政・医療管理学分野の各サブスペシャリティを理解できる。
- 2.現在の国内外の主な疾病や死因を理解できる。
- 3.各段階に適した予防とその対策としての政策や介入のデザインを分類できる。
- 4.保健医療政策に関わる組織とその構造や機能、公衆衛生の規制などを説明できる。
- 5.リーダーシップやマネジメントなど公衆衛生を率いるために必要な知識を述べられる。
- 6.システム思考やアドボカシーなど公衆衛生に導く素養を説明できる。

3. 成績評価の方法および基準

- (1)プレゼンテーション (40%)
- (2)積極的な授業参加 (30%)
- (3)討論の論点の把握と対応力 (30%)

4. 教科書・テキスト

・各授業で予習すべき文献を指定する。

5. 参考書

・各授業ごとに指定する。

6. 事前事後学修の内容およびそれに必要な時間

- ・指定文献を授業出席者全員が事前に読むことを求める。
- ・当該期間に15時間以上の予復習が必要。

7. その他履修上の注意事項

- ・試験やレポートに対し、講義の中での解説等のフィードバックを行う。
- ・この科目と学位授与方針との関連をカリキュラムマップを参照し理解すること。

<授業計画>

保健政策・医療管理学特論

| 回数 | 日付 | 時限 | 担当者 | 授業内容 |
|----|---------|----|-----------------------|--|
| 1 | 4/13(火) | 1 | 中田 善規 教授 | 導入および医療経営学 ・予算や資源のマネジメントの原理とツールの紹介 ・リーダーシップ、ガバナンス、マネジメントの原理の概要 |
| 2 | 4/13(火) | 2 | 山本 秀樹 教授 | 保健医療政策学(資源の配分に関する基本的な考え方) ヘルスケアに関連する組織とその構造や機能、公衆衛生と規制制度の概要 |
| 3 | 4/27(火) | 1 | 加藤 美生 助教 井上まり子 准教授 | 公衆衛生のダイナミクス システム思考とアドボカシー |
| 4 | 4/27(火) | 2 | 福田 吉治 教授 | ヘルス・ポリシー概論 ・予防の考え方(一次・二次・三次予防) ・公衆衛生に関連する集団対象の政策や介入 ・ステークホルダーとの連携や戦略の基礎 |
| 5 | 5/18(火) | 1 | 井口 直樹 教授(客) | 医療保障政策学 集団対象の政策やプログラム、プロジェクト、介入のデザイン その一例としての社会保障 |
| 6 | 5/18(火) | 2 | 崎坂香屋子 准教授 | 国際保健学 グローバルヘルスの潮流 ・経済格差、地域格差を踏まえた公衆衛生の政策策定やプログラムの設計・遂行(ワークショップ実施) |
| 7 | 6/1(火) | 1 | 橋本 英樹 講師(非) | 貧困と健康 社会的不公平の議論 |
| 8 | 6/1(火) | 2 | 高橋 謙造 教授 | 地域保健学 ・日本における主な疾病や死因 ・地域保健に影響を与える集団のニーズ、資源、能力の評価方法の基礎 |